

見えないもの、それを見たい。聞こえないもの、それを聞きたい。  
触れないもの、それを触りたい。嗅げないもの、それを嗅ぎたい。  
味わえないもの、それを味わいたい。感じられないもの、それを感じたい。  
そして 無いもの、それをあらしめたい。

(宗左近 著「日本美 縄文の系譜」序文の一節)

作詞〓宗左近

作曲〓荻久保和明

指揮〓山田和樹

ピアノ〓岡田照幸

合唱〓武蔵野合唱団(50名)

追悼 宗左近

# 縄文

「縄文をめぐって」プロジェクト音楽部門

## コンサート

2006年10月9日(月・祝)  
受付開始 17:00 開場 17:45 開演 18:00 終演 18:40  
青森県立美術館 アレコホール

# 合唱曲『縄文』とは？

ピアニスト 岡田 照幸

巨人・宗左近が描いた『縄文』は多くの作曲家により音となった。

詩人・宗左近が『縄文』に封じ込めた「心とタマシイ」は、作曲家のひとり・萩久保和明によって肉づけされ作曲者のライフワークとなり、現在そのシリーズは日本全国の合唱団憧れの作曲群となっている。宗左近の詩は戦争で一方的に死を余儀なくされた人々のためのレクイエムという色合いが強い。宗はこの不条理に満ちた現在と過去―「縄文」―とを対比させオーバーラップさせることによって、多くのさまよえる魂を現代に呼び醒まそうとしている。決して魂を慰めようなどという生易しいレクイエムではない。萩久保が選んだ4章の詩は人間の存在=その痛ましい姿=その峻厳な事実としての歴史を一つのスケールの大きい叙事詩=まるで聖書のような=として描いている。終章で執拗に現われる一つの旋律(それは決して言葉で歌われることはない)に形作られている、あるひとつの情念=祈り=を封じ込めている。

小林研一郎の指揮で武蔵野合唱団が初演したのが1980年(昭和55年)、作曲家27歳の時であった。それから20年後、萩久保は早稲田大学グリークラブのために『黙示録・縄文』を作曲し、このシリーズを書き終えた。宗左近のテキストによるこの一連の作品群は以下の通りである。『縄文』『花祭り縄文』『縄文“詩篇”』の3部作。他に『縄文ラプソディー』『縄文“愛”』『炎える母』が周辺を埋める。また、『黙示録・縄文』の終曲の後に『縄文』の第一章「透明」を続けて演奏するように指示されていて、すなわちこのシリーズではエンドレスの円環となってその輪を閉じている。萩久保曰く「誰かが言った通り、合唱団が曲を選ぶのではなく、『縄文』が合唱団を選ぶのである。選ばれた合唱団にだけ歌ってもらいたい……ごうまんやうだが心底そう思っている」。萩久保の『縄文』を歌える合唱団はこの世で五指に充たないであろう。なぜなら、炸裂しぶつかり合う言葉と音の凄まじさ、個の身体表現が連なり重なり合う言葉と音の渦は常人の想像を超えている。『縄文』を取り上げること自体が、まさに修行なのである。演ずる側も聞く側も覚悟しなければならない。『縄文』は合唱というジャンルを越え、想像を絶する凄まじさで、わたしたちのタマシイを揺さぶるであろう。

今回、実に四半世紀ぶりに武蔵野合唱団が縄文のメッカ「三内丸山=青森県立美術館アレコホール」で演奏するのである。宗左近・萩久保和明・山田和樹・武蔵野合唱団・岡田照幸の『縄文』は、本来ヒトが持ち続けている「心とタマシイ」そのものなのである。

※『縄文』は武蔵野合唱団が初演している。  
(1980年新宿文化センターおよびハンガリー・ブダペスト・マチャス教会)

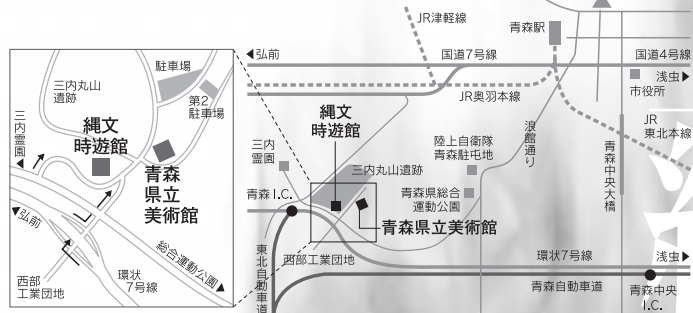
「縄文をめぐる」プロジェクト音楽部門 『縄文』コンサート

**2006年10月9日(月・祝)** ※コンサートの所要時間は約40分となっております。  
受付開始 17:00 開場 17:45 開演 18:00 終演 18:40  
於・青森県立美術館 アレコホール

料金 3,000円 (全席自由)  
チケット取扱 「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会 (青森県立美術館内)  
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244  
e-mail pa-varts@aomori-museum.jp  
URL http://aomori-museum.jp/

さくら野青森店、成田本店しんまち店、サンロード青森、JOY POPS、  
紀伊國屋書店弘前店、弘前大学生協、三春屋

## Access Guide



- 車でご来場の方
  - ・美術館駐車場をご利用下さい。
  - ・車いすご利用の方の駐車場もご用意しております。
  - ・ご希望の方は公演日の3日前までに「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会までご連絡下さい。
- 青森駅からご来場の方
  - ・演奏終了の約20分後、青森駅へのバスを出します(300円)。ご利用をご希望の方は、公演3日前までに「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会までご連絡下さい。

主催：「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会・青森県立美術館  
お問い合わせ：「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会(青森県立美術館内)  
〒038-0021 青森市大字安田字近野185 TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244  
e-mail pa-varts@aomori-museum.jp URL: http://aomori-museum.jp/

作詞 宗左近 Sakon Sou

【1919年5月1日～2006年6月20日】

詩人・評論家・仏文学者であり翻訳家。本名は古賀照一。法政大学名誉教授や昭和女子大学教授。福岡県速賀郡戸畑町(北九州市戸畑区)に生まれる。一高を卒業後、1942年、東京大学哲学科に入学した。1945年4月、召集により横須賀海兵隊に入隊したが、精神錯乱を装い除隊というエピソードもある。その後東京大学卒業。その後法政大学社会学部教授などを歴任した。高校時代からフランス象徴詩に親しみ、詩の創作に親しむ。戦後は「同時代」や「歴史」に参加した。様々な高等学校の校歌の作詞家としても非常に有名である。また、河童や縄文時代の世界にも造詣が深い。東京大空襲により母親を眼前で失い、それからの戦後の時代を必死で生き抜くために自分自身に叱咤激励した『そうさ、こんちくしょう!』という言葉がペンネームの由来になっている。

詩集『黒眼鏡』(ユリカ)『炎える母』(彌生書房、第6回歴程賞受賞)『宗左近詩集』(思潮社)『続・宗左近詩集』(思潮社)『透明の芯の芯』(思潮社)『夜の虹』『縄文』『いつも未来である始原』『河童』(文林書院)『ころ』(昭森社)『愛』(彌生書房)『幻花』(母岩社)『虹』(弥生書房)『魔法瓶』(文學書林)『鑑賞百人一首』(ぎょうせい)『鏡』(弥生書房)『お化け』(青土社)

評論集・エッセイ『詩のささげるもの』(新潮社)『私の死生観』(新潮社)『あなたにいたくて生まれてきた詩』(新潮社)『芸術の条件』(昭森社)『反時代的芸術論』(七曜社)『ドキュメント・わが母 絆』(旺文社)『鏞と表徴-フランス文学管見』(読売新聞社)『芸術家まんだら』(読売新聞社)

翻訳書『表徴の帝国』(ロラン・バルト著、筑摩書房)

作曲 萩久保 和明 Kazuaki Ogikubo

【1953年3月8日～】

埼玉県に生まれる。東京芸術大学大学院修了。1976年、「2つのオーケストラのためのレインダンス」にて、第45回毎日・NHK音楽コンクール作曲部門第1位を受賞。作曲を島岡謙、矢代秋雄、野田暉行、間宮芳生の各氏に師事。主な合唱曲として昭和53年度芸術祭参加作品として委嘱された混声合唱曲「季節へのまなざし」によって、合唱界での知名度が高まる。他の作品として、宗左近の詩をテキストにした合唱曲「縄文」シリーズがある。「縄文」(1979年)、「縄文“詩篇”」(1995年)、「黙示録・縄文」(1999年)の「縄文三部作」に、「番外編」(作曲家のコメントによる)として、「縄文ラプソディー」(1987年)、「縄文“愛”」(1993年)を加えた5曲から成る。現在、東邦音楽大学教授。

指揮 山田 和樹 Kazuki Yamada

1979年、神奈川県秦野市生まれ。2001年3月、東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。安宅賞受賞。指揮法を小林研一郎、松尾葉子の両氏に師事。レパートリーは弱冠22歳にしてベートーヴェン交響曲全曲演奏を達成した他、シューマン、ブラームス、ボロディン、ビゼー、フランクの交響曲全曲演奏も達成しており、幅広いレパートリーを持つ。また、若手作曲家とのコラボレーション、リハーサル付きの演奏会や若手音楽家コンチェルトデビューコンサートなど自らプロデュースするコンサートも数多く、精力的に活動している。合唱の分野では、2005年4月、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスに就任、2006年2月には委嘱作品初演を含む同団第203回定期演奏会への登壇も果たし、「音楽の友」「音楽現代」両誌などで絶賛された。武蔵野合唱団指揮者をはじめ、これまでに早稲田大学グリークラブ、稲門グリークラブ、東京六大学混声合唱連盟などの指揮指導にも当たっている。「ロマン派作品が得意なようで、スケールの大きな、今時珍しいほどのロマンチックな音楽をつくる。明晰で表現意欲も旺盛(音楽現代誌)」と評された。

ピアノ 岡田 照幸 Teruyuki Okada

1955年1月12日北見市生まれ。東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻中退。ポーランド政府給費留学生としてポーランド国立クラクフ高等音楽院(アカデミー)研究課程修了。宗広祐詩、遠藤道子、田村宏、故ルドヴィク・ステファンスキ、故ハリナ・チュルニエ=ステファンスカの諸氏に師事。amfあじがさわミュージック・フェスティヴァル・プロデューサー、弘前大学非常勤講師、岡田照幸音楽塾塾長、テレビ・ラジオパーソナリティーを務めている。毎日新聞社主催学生音楽コンクール、マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール入賞(シヨパン演奏特別賞受賞)。函館音楽協会奨励賞、青森県芸術文化奨励賞、鯉ヶ沢町文化章、ポーランド国ブオック音楽協会音楽振興賞受賞。萩久保和明氏の作品は、「縄文」(小林研一郎指揮、武蔵野合唱団)、「縄文・愛」(萩久保和明指揮、北海道大学合唱団)、「二台ピアノのためのラプソディー」(ニューヨーク、カーネギー・サitulホール)を初演している。CDは、「子供の情景」「走りつづける～熱情・月光・悲愴ソナタ」「秘密の恋～ピアノソラ、ガーシェウイン」「ベートーヴェン・ソナタ集」がリリースされている。

合唱 武蔵野合唱団 Musasbino Chorus

昭和30年東京都武蔵野市で発足。昭和39年指揮者に中田喜直氏を迎え第1回定期演奏会を開催する。昭和40年から日本を代表する指揮者・小林研一郎氏を常任指揮者を迎え、定期的に演奏会を開催してきた。『題名のない音楽会』『音楽のひろば』等のTV出演。東京都交響楽団、新日フィル、東京交響楽団、日フィル、新響、ハンガリー国立交響楽団、東京フィル、東京シティ・フィル、新星日響、大阪フィル、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団等と定期的に演奏会を持つ。これまでに、黒岩英臣、手塚幸紀、山田一雄、樋本英一、中村ユリ、松岡究、大野和士、十東尚宏、朝比奈隆、萩久保和明、外山雄三、本名徹次、エルビン・ルカーチ、山田和樹、金 徳基の各氏が指揮してきた。おもに、新宿文化センター、東京文化会館、昭和女子大学人見記念講堂、サントリホール、オーチャードホール、東京芸術劇場、簡易保険ホール等が舞台である。

追悼 宗左近

縄文

青森県立美術館 AOMORI MUSEUM OF ART